日　本　昆　虫　学　会

2015 年度評議員会報告・総会報告

評議員会報告

日時　2015 年 9 月 18 日（金）15：00－17：40
場所　九州大学箱崎キャンパス C 会場（302）（福岡市）
出席者（敬称略）「評議員」〈北海道〉大原昌宏、〈東北〉中村剛之、田中一裕、〈関東〉野村周平、矢後勝也（自然保護委員長）、神保宇嗣（図書幹事）、五箇公一、石川忠、吉松慎一、久保田耕平、友国雅章（代理の方出席）、〈東海〉山田佳廣、塚田森生、〈信越〉東城幸治、中村寛志（代理の方出席）、〈近畿〉吉村真由美（庶務幹事・電子化推進委員長）、平井規央（庶務幹事）、金沢至、沼田英治（将来問題検討委員長・国際昆虫学会議評議員）（代理の方出席）、〈中国〉竹松葉子、宮永龍一、〈四国〉小西和彦、荒川良、〈九州〉阿部芳久（副会長・100 周年記念事業委員長・日本昆虫科学連合日本昆虫学会代表）、広渡俊哉（日本の昆虫編集委員長）、徳田誠、舘卓司、丸山宗利、「本部（評議員以外）」前藤薫（会長）、市岡孝朗（会計幹事）、篠原明彦（渉外・本部事務幹事・日本分類学会連合日本昆虫学会代表）、「委員長等（評議員以外）」中尾史郎（会計監査）、大島一正（会計監査）、秋元信一（編集委員長）、三枝豊平（日本昆虫目録編集委員長）、佐藤宏明（日本 ICIPE 協会日本昆虫学会代表）

Ⅰ．会務報告

報告事項１．庶務幹事報告

1. 2015 年 9 月 1 日現在の会員総数は 1162 名（一般正会員 909 名、学生正会員 183 名、海外正会員 19 名、団体会員 37 団体、賛助会員 3 名、名誉会員 11 名）である（寄贈会員 31 名を加えて 1193 名）。退会処理予備群である 3 年以上の会費滞納者（2013 年度から 2014 年末日を納入期限とした 2015 年度分会費まで）は、正会員 39 名である。なお、2014 年末時点で 2012 年度から 2014 年度分までの 3 年分の会費を滞納していた会員 33 名を、日本昆虫学会会則第 8 条および第 11 条 2 により退会とした。
2. 吉村真由美　電子化推進委員長の推薦した 5 名の会員（小西和彦、平井規央、桝永一宏、吉澤和徳、吉富博之）に 2015-2016 年度同委員を委嘱することの可否について、2015 年 1 月 23 日締め切りのメールによる通信評議員会に諮った結果、承認された。また、平井規央会員、桝永一宏会員、吉富博之会員にウェブサイト管理ワーキンググループを委嘱することが、同日報告された。
3. 広渡俊哉　日本の昆虫編集委員長の推薦した 6 名の会員（紙谷聡志、坂巻祥孝、中村剛之、丸山宗利、山田量崇、山根正気）に 2015-2016 年度同委員を委嘱することの可否について、2015 年 1 月 29 日締め切りのメールによる通信評議員会に諮った結果、承認された。
4. 矢後勝也　自然保護委員長から「熊本県内大臣峡のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書」を経産省エネルギー資源庁および JNC 株式会社に提出したい旨の緊急の連絡があり、自然保護委員会において審議・承認を行い執行部内でも検討の後、提出したことが報告された。
5. 分類学会連合の村上代表から、神保宇嗣会員を「国立自然史博物館の新設案」WG 委員に推薦して欲しいというご依頼があり、本学会の執行部で検討した結果、神保宇嗣会員を分類学会連合の「国立自然史博物館の新設案」WG 委員に推薦したことが報告された。
6. 2015-2016 年度の自然保護委員の選出を支部幹事に依頼し、以下のとおり選出し、評議員にメールで報告した（2015 年 2 月 19 日）。北海道：大原昌宏（北海道大学総合博物館）、（東北）：三田村敏正　（福島県農業総合センター）、（関東）：石川忠（東京農業大学農学部）、（東海）：山岸健三（名城大学農学部）、（信越）：藤山静雄（信州大学理学部）、（近畿）：中尾史郎（京都府立大学大学院農学研究科）、（中国）：林成多（（財）ホシザキグリーン財団）、（四国）：吉冨博之（愛媛大学農学部）、（九州）：荒谷邦雄（九州大学大学院）
7. 和文誌編集部規則第 2 条 3 に基づき、大原和文誌編集委員長より、和文誌の充実と刷新のため、和文誌の新たな編集委員として大島一正会員の推薦があり、委嘱することの可否について、2015 年 3 月 2 日締め切りのメールによる通信評議員会に諮った結果、承認された。
8. 分類学会連合の村上代表から、荒谷邦雄会員を日本分類学会連合の「ABS 問題対策ワーキンググループ委員」に日本昆虫学会の代表として委嘱したい旨の連絡があり、本学会の ABS 問題を扱っている自然保護委員会において審議・承認されたことが通信評議員会において報告された。
9. 日本昆虫学会が創立１００周年を迎えるにあたり、記念事業開催のための委員会を設けるため、100 周年記念事業委員会

規程（案）が作成され、2015 年 2 月 26 日締め切りのメールによる通信評議員会に諮った結果、承認された。

10. 信越支部幹事が東城幸治会員（〒390-8621 松本市旭３－１－１　信州大学 理学部生物科学科　Tel: 0263-37-3341、E-mail: ktojo@shinshu-u.ac.jp）に交代、中国支部幹事が泉洋平会員（〒690-8504 松江市西川津町 1060 島根大学　生物資源科学部農林生産学科、Tel: 0852-32-6527 E-mail: yohei@life.shimane-u.ac.jp）に交代、四国支部幹事が小西和彦会員（〒790-8566 松山市樽味３－５－７愛媛大学 農学部昆虫学研究室 Tel: 089-946-9927、E-mail: konishi@agr.ehime-u.ac.jp）に交代したとの連絡を受け、通信評議員会で報告した。
11. 和文誌編集部規則第 2 条 3 に基づき、大原和文誌編集委員長より、和文誌の新編集委員として中村剛之会員の推薦があり、委嘱することの可否について、2015 年 3 月 16 日締め切りの通信評議員会に諮った結果、承認された。
12. 100 周年記念事業委員会規程第 2 条に基づき、会長より推薦のあった阿部芳久会員に委員長を委嘱することの可否について、2015 年 4 月 21 日締め切りのメールによる通信評議員会に諮った結果、承認された。
13. 会長から将来問題検討委員会に対して、以下のとおり諮問がなされた。

平成２７年４月２０日

日本昆虫学会将来問題検討委員会
委員長　沼田　英治　様

日本昆虫学会
会長　前藤　薫

将来問題検討委員会への諮問

将来問題検討委員会において、下記の３項目についてご検討をいただき、平成 27 年 8 月 20 日までに答申を頂けるようお願いいたします。

諮問１　法人化に向けた経理手続きの見直し

平成 26 年 8 月 22 日の将来問題検討委員会答申では、「昆虫学会は、一般法人としての法人格を取得することが望ましい」とされ、そのためには「経理手続きの厳格化」が必要であると指摘されています。将来の法人化に向けて、外部会計監査の導入を含めた経理手続きをどのように見直すべきか、関連学会の取組みなども踏まえて、ご検討をお願いいたします。

諮問２　女性会員の増加、活躍の支援

日本昆虫学会は女性会員がきわめて少ない現状にあります。女性会員を増やすためにはどのような取組みが必要なのか、また女性会員の活躍を支援するために学会としてとり得る施策はあるのか、ご検討をお願いいたします。

諮問３　国際昆虫学会議の誘致

国際昆虫学会議は、2012 年のアジア(韓国)、2016 年の北米、2020 年の欧州(予想)と一巡し、2024 年には再びアジアで開催される可能性があります。2024 年の国際会議を日本で開催するメリット、日本開催のために必要とされる条件(誘致の可能性)、誘致のためのスケジュールと組織体制、昆虫学会としての取組みなど、ご検討をお願いいたします。

14. 2016 年に米国フロリダ州にて開催される国際昆虫学会議への出席者に対して学会基金による旅費の一部の補助に関する募集内容について、2015 年 4 月 28 日締め切りのメールによる通信評議員会に諮った結果、承認された。
15. 100 周年記念事業委員会規程第 2 条に基づき、委員長より 100 周年記念事業委員会の委員として推薦いただいた 3 名の会員（秋元信一、上田恭一郎、沼田英治）に同委員を委嘱することの可否について、2015 年 5 月 15 日締め切りのメールによる通信評議員会に諮った結果、承認された。
16. 2015 年度若手奨励賞に 9 件の選考対象となる応募があった。2015 年 5 月 18 日締め切りの候補者決定投票の結果、大島一正会員（研究タイトル：ホストレースを用いた植食性昆虫の進化遺伝学的研究）が候補者となった。5 月 28 日締め切りの候補者の受賞の賛否についての投票の結果、同会員の受賞が決定した。
17. 2015 年度あきつ賞に 5 件の応募があった。電子化推進委員会において 2 件のウェブサイトが推薦され、2015 年 5 月 28 日締め切りの評議員による候補サイトに対する投票の結果、久松定智会員がウェブサイト代表の「愛媛県のトンボ」が受賞候補となった。6 月 3 日締め切りの候補サイトの受賞の賛否についての投票の結果、同サイトの受賞が決定した。
18. 2015 年度論文賞の候補論文 5 編は、編集委員会において 5 月 21 日締め切りの投票により選定され、日本昆虫学会論文賞選考細則第３条に則って 6 月 3 日締め切りの評議員による 5 編の候補論文に対する投票を行った結果、第 1 位は単独 1 編であったが、第２位が２編となったため、第２位の２編について再投票を行い、以下の２論文の受賞が決定した。
    (1) KOSEI HASHIMOTO & FUMIO HAYASHI: Cantharidin world in nature: a concealed arthropod assemblage with interactions via the terpenoid cantharidin. *Entomological Science* 17(4): 388-395.
    (2) TAISUKE KANAO, MUNETOSHI MARUYAMA & RYUTARO IWATA: Systematics of rove beetles (Coleoptera: Staphylinidae: Aleocharinae) associated with *Hodotermopsis sjostedti* (Isoptera: Termopsidae). *Entomological Science* 17(4): 409-424.
19. 公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会より、「コスモスセミナー自然観察教室 2015“集まれ！生きもの好きな子どもたち”」に関して、本学会の後援の依頼があった。本学会の執行部で検討した結果、後援名義使用を承認した（2015 年 6

月 12 日)。

20. 電子著作物の複製に関する著作権処理の学術著作権協会への委託について、執行部で検討し 2015 年 6 月 9 日に覚書を締結したことが報告された。

21. 電子化推進委員会規程および日本昆虫学会ウェブサイト管理のための細則の改正案に関して、2015 年 6 月 25 日締め切りの通信評議員会に諮った。提案された意見に対して執行部としての見解を述べ、2015 年 6 月 30 日締め切りの通信評議員会に諮った結果、承認された。改正案は以下のとおり（下線部を挿入し，二重取り消し線部を削除する。）

電子化推進委員会規程

第 3 条　本委員会は必要に応じてウェブサイトの管理など，実務を担当するワーキンググループを置くことができる．ワーキンググループには日本昆虫学会会員以外の者を含むことができる．ワーキンググループには庶務幹事１名を含める．ワーキンググループ・メンバーは委員長が推薦し，会長が委嘱する．

2015 年 7 月　1 日一部改正

日本昆虫学会ウェブサイト管理のための細則

3. ウェブサイトの体裁は電子化推進委員会において決定し，ワーキンググループが業務を遂行する．~~に一任し，~~文責は以下に定める原稿の提供者が負う．

4. 「ウェブサイト原稿の提供者」とは，会則第 13 条に定める役員および，自然保護委員長，日本の昆虫編集委員長，将来問題検討委員長，電子化推進委員長，日本昆虫目録編集委員長，支部幹事の役職とするが，電子化推進委員会が必要と認めた場合はそれ以外の者も原稿を掲載できる．

6. ただし，支部幹事や大会会長が独自のウェブサイトを開設し，そこに必要な情報を提示する場合は，昆虫学会のウェブサイトからリンクさせるので，ワーキンググループ宛に原稿を送付する必要はない．独自開設のウェブサイトの体裁については，電子化推進委員会は~~ワーキンググループは~~責任を負わない．

7. どのような情報が掲載に値するかは，上で規定した「ウェブサイト原稿の提供者」の判断にゆだねる．ただし，電子化推進委員会およびワーキンググループは必要と思われる情報が掲示されない場合，また情報の更新がなされない場合は，当該の役職に原稿を依頼・督促することができる．

11. ウェブサイトの運営管理は委員長が責任を負うが，その掲載内容に関する最終責任は会長にある．

付則　本細則は 1999 年 9 月 23 日から施行する．

2015 年 7 月 1 日一部改正

22. 将来問題検討委員会の答申を受け、女性賞の創設に関する意見を 8 月 4 日締め切りで募集した。

23. 東京大学総合研究博物館の矢後会員より「東京大学総合研究博物館モバイルミュージアム特別展：蝉類博物館―昆虫黄金期を築いた天才・加藤正世博士の世界」に関して、本学会の後援の依頼があった。本学会の執行部で検討した結果、後援名義使用を承認したことを報告した（2015 年 8 月 5 日）。

24. 日本昆虫目録編集委員会三枝豊平委員長の要請により、日本昆虫目録編集委員会規則第 5 条に基づき、会長より新たな委員として笹本彰彦会員（蜻蛉目担当）、伊藤元会員（直翅系昆虫担当）、篠原明彦会員・渡辺恭平会員（膜翅目担当）の推薦があり、委嘱することの可否について、2015 年 8 月 6 日締め切りのメールによる通信評議員会に諮った結果、承認された。

25. 2016 年度からの英文誌出版委託契約を Wiley 社と 8 月 5 日付で締結した。Entomological Science は原則的に電子媒体での提供となり、希望者にのみ有償（6,000 円）で冊子体の配布を行うことになる。

26. 会長から将来問題検討委員会に対して、以下のとおり諮問がなされた。

平成２７年８月２４日

日本昆虫学会将来問題検討委員会
委員長　沼田　英治　様

日本昆虫学会
会長　前藤　薫

将来問題検討委員会への諮問

下記の問題について、年内を目処に答申を頂けるようお願いいたします。

諮問４　第 27 回国際昆虫学会議の日本開催の可能性

国際昆虫学会議を我が国に誘致する意義と問題点については、平成２７年８月７日付けの答申を頂いたところですが、前後して国際昆虫学会議評議員の沼田英治氏から 2024 年の第 27 回国際昆虫学会議を日本で開催する可能性について問合せを受けております。つきましては、2024 年の国際昆虫学会議を日本で開催することが可能かどうか、委員会にワーキンググループを設置して具体的な検討を行なって頂けるよう、お願いいたします。

27. 沼田英治将来問題検討委員長の推薦した 8 名のワーキンググループ委員（神保宇嗣・田中一裕・徳田誠・広渡俊哉・吉村真由美・竹松葉子・東城幸治・吉澤和徳）に対して会長より 2015-2016 年度の同委員として委嘱がなされました。

（庶務幹事　吉村真由美・平井規央）

報告事項２．会計幹事報告　別紙１

2015 年度会計中間報告は別紙 1 の通りである。

（会計幹事　市岡孝朗）

報告事項３．渉外・本部事務幹事報告

特になし

（渉外・本部事務幹事　篠原明彦）

報告事項４．図書幹事報告

1. 国立情報学研究所（以下情報研）からのコンテンツ公開情報研からバックナンバー公開条件の確認と更新の照会があり，現行条件（刊行後2年間非公開，その後はオープンアクセス）で更新した.
2. JSTのJ-STAGE新サービスに関する説明会
情報研電子図書館事業（NII-ELS）が2016年末で終了する．その受け皿となる科学技術振興機構（JST）のJ-STAGEの新サービスについて，2015年5月11日および同年7月15日にJST本部にて開催された説明会に参加した．2015年よりJ-STAGEは査読無し雑誌や予稿集等まで対象を広げること，2015年9月1日より新サービスの受け付けを開始すること，サービス開始および情報研からのデータ移行に関する手続きについて説明があった．説明会の内容に基づき，新サービスへの移行の検討を行っている.

（図書幹事　神保宇嗣）

報告事項５．編集委員会報告

1) 英文誌Entomological Science編集報告

1. 編集状況

・2014年受領論文（月別投稿数は8月より順に19，29，24，17，10）

国・地域	受領	採択	却下	採択率(%)
日本	60	21	39	35.0%
その他アジア	96	2	94	2.1%
ヨーロッパ	[f]45	13	31	28.9%
北米	3	0	3	0.0%
中南米	[f]38	2	35	5.3%
アフリカ	7	1	6	14.3%
オセアニア	0	0	0	0.0%
合計	249	40	208	16.1%

[f]未決である1本を含む

・2015年受領論文（6月30日現在、月別投稿数は1月より順に18，20，26，26，17，16）

国・地域	受領	採択	却下	未決
日本	40	11	10	19
その他アジア	41	1	30	10
ヨーロッパ	14	1	11	2
北米	5	0	4	1

中南米	14	1	9	4
アフリカ	8	0	8	0
オセアニア	1	0	1	0
合計	123	14	73	36

2014年度に受領した原稿数(249)は、2013年度の原稿数(251)と比べて大きな変化はなかった。

2015年度は、例年（448ページ）より80ページ増での出版を予定している。これによって、出版待ちの原稿を大幅に減らすことができる見込みである。

・18巻1号1月5日発行．掲載数15編.

・18巻2号4月5日発行．掲載数22編.

・18巻3号7月5日発行．掲載数13編.

・18巻4号10月5日発行予定．掲載予定数未定.

2. Entomological ScienceのImpact Factor

2014年度は1.065となり、2013年度の1.116からやや下がった。Invited Reviewの貢献度が高いために、今後もReview原稿の依頼を行う。

2) 和文誌「昆蟲（ニューシリーズ）」編集報告

1. 編集状況

・2014年受領論文総数は11編（昨年16編）．内，受理7編，却下・取り下げ4編（受理率 63.6%／昨年は93.8%）．月別投稿数は8月より順に，0，1，1，1，0．第73回札幌大会（2013年9月）での高校生ポスター発表1題の内容が論文として投稿され，通常の査読プロセスを経て受理に至った。著者に会員が含まれていなかったことなどを考慮し，「高校生ポスター発表招待論文」として掲載した。

・2015年受領論文数は8月1日現在6編（8編）．内，受理3編，査読中3編．月別投稿数は1月より順に，0，0，1，2，1，0，2.

・17巻掲載論文

4号：短報2，博物館だより1.

・18巻掲載論文

1号：高校生ポスター発表招待論文1，フォーラム1.

2号：原著論文2，博物館だより1，博物館だより1.

3号：原著論文1，新記録ノート1，フォーラム1.

4号（予定）：原著論文1，新記録ノート1，特別寄稿1.

（委員長　秋元信一）

報告事項６．自然保護委員会報告

2015 年 第 1 回の通信委員会を 1 月 15～20 日に開催し、以下の事項について協議した。

1. 熊本県のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書

熊本県山都町にある JNC（株）の発電所に関わる FIT 制度設備認定のための工事により、環境省「種の保存法」の希少野生動植物種および国の天然記念物に指定されているゴイシツバメシジミとその食草シシンランに悪影響を及ぼすことが懸念されたため、工事見直しの要望書提出を協議し、2015 年 1 月 25 日に日本鱗翅学会と共同声明で、経済産業省、環境省、農林水産省、文部科学省、JNC（株）の各長宛に要望書を提出（別紙 2）。

第 2 回の通信委員会を 2 月 6～13 日に開催し、以下の事項について協議した。

2. 日本分類学会連合における ABS 問題対策ワーキンググループ委員の選出

日本昆虫学会からの選出として執行部より荒谷邦雄会員が推薦され、これを本委員会内で審議、了承した。

第 3 回の通信委員会を 5 月 14～20 日に開催し、以下の事項について協議した。

3. 熊本県のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書への回答について

2015 年 1 月 25 日に工事見直しの要望書を JNC（株）に提出したが、その後の調整による JNC（株）との合意案を協議し、

5 月 25 日付で 本会からの回答書を JNC（株）社長宛に送付（別紙 3）。

第 4 回委員会を 9 月 18 日（金）13〜14 時に九州大学箱崎文系キャンパス講義棟 102 号室において開催し、以下の事項について協議した。

4. 第 75 回大会における本委員会主催のシンポジウムについて

テーマ：島嶼生態系の多様性と保全

主催：日本昆虫学会自然保護委員会

企画・世話人：荒谷邦雄・矢後勝也

日時：2015 年 9 月 21 日（月・祝日）

場所：大講義室（九州大学箱崎文系キャンパス）

内容：

荒谷邦雄（九大・院・比文）島嶼生態系の多様性と保全に関わる問題点

今坂正一（E-アシスト 代表）長崎県の島の甲虫相解析の試みについて

細谷忠嗣（九大・決断科学センター）琉球列島のコガネムシ上科甲虫の系統地理、多様性、保全

徳田　誠（佐賀大・農）伊豆諸島におけるゴール形成タマバエ類の顕著な密度変動とその要因

岸本年郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム）・高橋洋生・森英章・戸田光彦（自然研）小笠原における昆虫の保全と外来種対策

5. 名古屋議定書に関するその後の進展状況について

6. その他

（委員長　矢後勝也）

報告事項７．日本の昆虫編集委員会報告

1) 「The Insects of Japan 日本の昆虫」の編集状況

Vol. 4. Morimoto, K., Nakamura, T. & Kannho, K.: Curculionidae: Entiminae (Part 2). 森本　桂・中村剛之・官能健次　ゾウムシ科クチブトゾウムシ亜科（2）原稿, 573 pp. + 120 pls. (査読中)

Vol. 5. Kuroko, H.: The Genus Cosmopterix (Lepidoptera, Cosmopterigidae). 黒子　浩　カザリバ属（鱗翅目，カザリバガ科）原稿, 113 pp. + 52 pls.（校正中）

Vol. 6. Takeshi Terada: Stathmopodidae (Lepidoptera). 寺田　剛　ニセマイコガ科（鱗翅目）原稿, 207 pp. + 19 pls. + 233 figs. (査読中)

2) 原稿募集について

Vol.7 以降の原稿も随時募集しております。詳しい執筆要領と編集員会規定は学会ホームページを参照してください。

（委員長　広渡俊哉）

報告事項８．電子化推進委員会報告

1)トップデザイン

昨年度の電子化推進委員会においてＨＰトップデザインの変更がなされたが、今年度は、より使いやすくなるよう体裁の変更を行っている。

2) あきつ賞

今年度より学会が与える賞となった。5 件の応募があり、電子化推進委員会において審議し2件のウェブサイトを推薦した。

3) 電子化推進委員会規程および日本昆虫学会ウェブサイト管理のための細則の改正

近年、学会ＨＰは学会の顔ともいうものになっているが、現在の細則では執行部の意向が反映されにくい。ウェブサイトの重要性は今後ますます高まり、更新スピードも要求されるようになる。また、支部会等のページ更新はそれぞれ（支部会等）に任されているため、古い状態のままのものも多々見受けられる。よって、執行部の一人（庶務幹事）がWGのメンバーの一員となること、ウェブサイトの運営管理は委員長が責任を負い、その掲載内容に関する最終責任は会長にあることを明記したほうが良いと考え、改正案を提出し、承認された。

（委員長　吉村真由美）

報告事項９．日本昆虫目録編集委員会報告

１．昨年度に日本昆虫目録第 8 巻双翅目を出版して以来、編集委員はそれぞれが担当する目の原稿集約並びに編集作業を続けている。
２．第４巻準新翅類の編集作業が順調に進行し、とくに半翅目について林委員、石川委員を中心に原稿の集約が進んでいる。来年度中に同類の他の目の原稿を加えて本巻の出版を予定している。
３．第 3 巻直翅系昆虫については、編集および原稿集約作業が滞っていたために、新たに編集委員を増員してこれに当たる予定である。現在新委員の承認を評議員会に諮問中であり、これが認められると積翅目を除く目すべての執筆者が決定され、執筆が順調に進行する予定である。第 4 巻と前後しての出版が期待されるが、積翅目の原稿集約及び編集作業が担当の内田委員によって他の目と同時進行することを期待している。
４．第 9 巻膜翅目については、現委員から順調な編集作業を進める上で 2 名の委員の追加が要請され、これが現在評議員会に諮問されている。これが承認されると原稿集約並びに編集作業がはかどることが期待される。
５．第 2 巻旧翅類については、すでに枝委員担当の蜻蛉目の原稿がかなり初期にほぼ完成しているが、同巻に含める予定の蜉蝣目の原稿集約並びに編集作業が著しく停滞してきた。これについては担当委員である内田委員に作業の進行を促している。1 年以内に蜉蝣目の編集が終了しない場合には、本巻を 2 部に分割して、蜻蛉目だけを出版することも考慮にいれている。また、蜻蛉目の最終的な編集のために 1 名委員の増員が必要で、これは現在評議員会に諮問中である。
６．第 1 巻無翅昆虫類も旧翅類と類似した状況があり、粘管目を除く他の目では原稿がほぼ完成しているが、粘管目について、東海大学出版が予定している仮称トビムシ図鑑の出版による新しい分類体系を本目録に収録することが期待されている。しかし、この出版が予定されながらすでに 4 年を経過しているので、場合によってはこの出版を待たずに現状での分類により粘管目の原稿を締め切って、本巻の出版を行うことも考慮される。
7. 他の目についてはそれぞれ担当委員が鋭意原稿集約並びに編集作業を行っている。

（委員長　三枝豊平）

報告事項１０．将来問題検討委員会報告

2015 年 4 月 20 日に会長より、以下の諮問を受けた。

諮問１　法人化に向けた経理手続きの見直し

平成 26 年 8 月 22 日の将来問題検討委員会答申では、「昆虫学会は、一般法人としての法人格を取得することが望ましい」とされ、そのためには「経理手続きの厳格化」が必要であると指摘されています。将来の法人化に向けて、外部会計監査の導入を含めた経理手続きをどのように見直すべきか、関連学会の取組みなども踏まえて、ご検討をお願いいたします。

諮問２　女性会員の増加、活躍の支援

日本昆虫学会は女性会員がきわめて少ない現状にあります。女性会員を増やすためにはどのような取組みが必要なのか、また女性会員の活躍を支援するために学会としてとり得る施策はあるのか、ご検討をお願いいたします。

諮問３　国際昆虫学会議の誘致

国際昆虫学会議は、2012 年のアジア(韓国)、2016 年の北米、2020 年の欧州(予想)と一巡し、2024 年には再びアジアで開催される可能性があります。2024 年の国際会議を日本で開催するメリット、日本開催のために必要とされる条件(誘致の可能性)、誘致のためのスケジュールと組織体制、昆虫学会としての取組みなど、ご検討をお願いいたします。

諮問２について 2015 年 6 月 23 日に、会長あてに以下のように答申した。

１．女性会員を対象とした賞の新設を検討してください。
２．執行部として女性評議員の増加を呼びかける活動を行ってください。
３．昆虫学会の中核を担ってきた分野の研究者の女性の割合が少ないので、昆虫を対象としていながら昆虫学会に入会していない研究者、研究者以外のアマチュア等に積極的に入会あるいは大会に参加してもらえるような活動を充実させてください。
４．昆虫学会大会時に託児所の開設を検討してください。そのために、まず大阪での合同大会における託児所の昆虫学会会員による利用状況などをもとに需要を調査してください。
５．男女共同参画学協会連絡会の活動について調査し、本学会にとって意義があると考えられるなら加盟を検討してください。
６．大会時に開催されるシンポジウム等で登壇者の女性の割合を増加させるように、執行部から大会準備委員会に対して申し送りをしてください。

諮問１について 2015 年 7 月 17 日に、会長あてに以下のように答申した。

本会が一般社団法人となることが望ましいと考えますが（委員の多数意見）、そのためには、かなりの費用をともなう改革が必要と考えられます。したがって、すぐに一般社団法人となることは困難と考えますが、任意団体であっても対外的信用を高める努力が必要です。外部監査は一般社団法人の必要条件ではありませんが、固定した事務局の存在と外部監査に耐えられる会計システムの構築は、法人化への準備段階として、また対外的信用を高めるためにも必要と考えられます。さらに、そのような会計システムを現状のように研究者である会計幹事が一人で事務処理することは不可能ですので、そのための事務員の雇用が必要となります。

１．固定した事務局の存在、および外部監査に耐えられる会計システムの構築とそれを扱う事務員の雇用にかかる費用を算出し、本学会の会計で可能かどうか検討してください。

２．任意団体のままでも第三者による会計監査が可能であれば行うべきです。その場合にかかる費用を算出し、可能であれば法人化を待たずに実行してください。費用の点で会計士による監査が難しい場合でも、できる限り第三者的な監査を導入することを検討してください。そのために、会則９条２項によって「評議員会が選出する」となっており、実際には執行部が評議員に提案して信任投票によって決まっている現在の会計監査の選び方を検討することも必要でしょう。

諮問３についてについて 2015 年 8 月 7 日に、会長あてに以下のように答申した。

1980 年に第 16 回国際昆虫学会議が京都で開催されてからすでに 35 年が経過し、その間多くの日本人昆虫研究者が各地で開催された国際昆虫学会議に参加し、その恩恵を受けるとともに、講演の演者、シンポジウムの組織などの形で貢献してきました。2024 年に日本で開催するならば 44 年ぶりになり、国際的に理解される可能性は高いでしょう。1980 年当時の若い日本人昆虫研究者が刺激を受けたように、これからの日本人昆虫研究者のために、強いては日本の昆虫学のさらなる発展のために、日本で開催する意義は大きいと考えられます。何人かの委員から積極的に招致すべきという意見が出ています。一方で、これだけ規模の大きい国際会議を開催するには、主催する団体、開催地、組織委員会、資金などさまざまな問題が存在します。また、日本人昆虫研究者にとってどうかという観点だけではなくグローバルにどこで開催するのが適切かという観点も重要です。そこで、本委員会は以下のように提案いたします。

2024 年に第 27 回国際昆虫学会議を日本で開催する可能性について、関係団体との協議を開始してください。

（委員長　沼田英治）

報告事項１１．100 周年記念事業委員会報告

100 周年記念事業としてシンポジウムの開催と和文誌の特集号の発行を考えている。

I. 記念シンポジウム

2017 年の大会時に開催（3 時間 20 分程度）

1　昆虫学会 100 年の歩みと現状（仮題）　学会長　（20 分程度）

2　昆虫学の最近の進歩と今後の展開（仮題；１題 30 分程度）

A 体系学・形態学

B 生理学・行動学

C 生態学

D 保全生物学・自然保護

3 昆虫学と博物館（仮題；30 分程度）

4 昆虫学にはたすアマチュアの役割（仮題；30 分程度）

II. 和文誌の 100 周年特集号

2017 年の大会時の記念シンポジウムで講演していただいた内容に基づき、講演者に書いていただく。

2017 年大会はおそらく 2017 年秋に開催と思われるので、2018 年の１号あるいは２号を特集号にしてはどうかと思う（編集委員会との調整が必要）。

III. 必要経費

記念シンポジウムの会場費

非会員にシンポジウムで講演を依頼した場合の交通費と謝金

＊　一般会計でまかなえない場合には、評議員会の御承諾を得た上で特別会計から支出。

（委員長　阿部芳久）

報告事項１２．日本 ICIPE 協会に関する報告

1）2014 年度活動報告（2014 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日）

○協会のうごき

2014 年

3 月 27 日、第 58 回日本応用動物昆虫学会大会にあわせ、高知大学朝倉キャンパス（高知市）で総会を開催した。同日、第 20 回 ICIPE 研究報告会「アフリカ昆虫学の夕べ」を以下の内容で開催した。

1. 高須啓志（九州大）「マダニの寄生蜂 Ixodiphagous hookeri の生態」
2. 小路晋作（金沢大）・足達太郎（東京農大）「マメノメイガの長距離移動を追って：西アフリカでのモニタリング調査から分かったこと」
3. 足達太郎（東京農大）「ケニアにおける野生生物と人間の軋轢」

※報告 2 については、当初発表予定だった小路氏が弔事で欠席のため、足達が報告した。

6 月 6 日、日本昆虫科学連合より次期連合代表候補者推薦の依頼があり、運営委員会にメールではかった結果、田付会長を連合の次期代表候補として推薦することに決定し、6 月 29 日に連合事務局につたえた。

7 月 26 日、日本昆虫科学連合総会。協会からは団体代表者として田付会長（佐藤会員の代理）と足達の 2 名が出席した。

8 月 2 日、日本昆虫科学連合より名古屋議定書にかんする意見募集の依頼があり、メールニュースにて会員に意見をつのったうえで、連合に対応が可能とおもわれる 4 件の意見・要望を 8 月 17 日に連合事務局へ送付した。

9 月 13 日、日本昆虫学会評議員会にて同学会選出の佐藤運営委員が協会の活動を報告した。翌 14 日の同学会第 74 回大会（広島大学）の総会でも佐藤委員が報告をおこなった。

○発行・配信など

機関誌の発行：2014 年 12 月 31 日に『ICIPE News』28 号を発行し、電子メールで会員に送付した（資料 1 参照）。

メールニュースの配信：「日本 ICIPE 協会メールニュース」の各号を電子メールにて会員に適宜配信した（資料 2 参照）。

2）2014 年度会計報告（2014 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日）

	項目	金額	備考
収入	前年度繰越金	928,739	
	個人会員収入	40,000	2000 円×20 人･年
	雑収入	5,392	分
	小計	974,131	利息・寄付金
支出	総会費	7,560	弁当代
	事務通信費	690	送料・振込手数料
	小計	8,250	
残高		965,881	

3）ICIPE のうごき

2014 年 11 月、ナイロビの ICIPE 本部構内に African Reference Laboratory for Bee Health が開設された。

11 月 1～7 日、ナイロビにて ICIPE 理事会が開催され、理事として皆川昇会員が出席した。

4）科学研究費などの採択状況

「分子情報に基づく熱帯起源生物の移動ルートの解明」科学研究費基盤研究（B）海外学術調査　2013～2016 年度（予定）研究代表者：立田晴記（琉球大）対象地域：マダガスカル・ナイジェリア・ベナン・ケニアほか

「南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行の早期警戒システムの構築」地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）2013～2017 年度（予定）研究代表者：皆川昇（長崎大）対象地域：南アフリカ

5）日本昆虫学会選出運営委員

佐藤宏明・足達太郎

＜資料１＞

『ICIPE News』No.28（2014 年 12 月 31 日発行）目次　　頁

【巻頭言】師走の妄想―巻頭言に代えて　田付貞洋 1
【総説】アフリカ昆虫学史試論（上）　足達太郎　3
【学術情報】
渡航研究者情報　7
アフリカ昆虫学にかんする進行中の研究課題　7
アフリカ昆虫学にかんする研究成果　7
会員が関与した出版物　8
【会務報告】
2014 年度日本 ICIPE 協会総会報告　9
ICIPE 理事会報告 皆川昇　12
日本昆虫科学連合総会報告　13
会費納入のおねがい　14
ICIPE と日本 ICIPE 協会の沿革　14
日本 ICIPE 協会規約　15
日本 ICIPE 協会役員・会員名簿　17
編集後記　17

＜資料２＞

日本 ICIPE 協会メールニュース総目次（2014 年 1 月～12 月）

1 月 10 日：2014 年度日本 ICIPE 協会総会のおしらせ：議案の募集と弁当の注文／研究報告会のおしらせ／会員動静

2 月 21 日：日本昆虫科学連合にかんする案件／2014 年度日本 ICIPE 協会総会のおしらせ：出席者の人数と議案の募集／研究報告会のおしらせ：日時と会場／イベントのご案内／会員動静

4 月 25 日：本年度総会議事録／昆虫科学連合からの連絡（シンポジウム開催）／情報提供のおねがい（ICIPE と日本 ICIPE 協会の沿革、関連学会の情報）／会費納入のおねがい

5 月 8 日：国際昆虫生理生態学センター研究協力部長（副所長格）の公募について／イベントのご案内／メディア情報／会費納入のおねがい 2014 年

6 月 30 日：日本昆虫科学連合次期代表候補者の推薦について／イベントのご案内／渡航研究者情報

7 月 15 日：来日研究者情報およびセミナーのご案内／渡航研究者・イベント情報提供のおねがい

8 月 2 日：日本昆虫科学連合総会報告／名古屋議定書にかんする意見募集／渡航研究者・イベント情報提供のおねがい（継続）

9 月 3 日：名古屋議定書にかんする意見募集の結果と日本昆虫科学連合への送付／イベントのご案内／渡航研究者・イベント情報提供のおねがい（継続）

10 月 14 日：日本昆虫科学連合後援・名古屋議定書対応に関する検討会開催のおしらせ／渡航研究者・イベント情報提供のおねがい（継続）

11 月 28 日：「ICIPE News」への投稿のおねがい／「分類学関連分野の名古屋議定書への対応に関するワークショップ」のご案内

（日本 ICIPE 協会委員　佐藤宏明）

報告事項１３．自然史学会連合に関する報告

運営委員会：　2 月 2 日、4 月 27 日、7 月 6 日

1. 自然史書籍の出版計画：　多くの学協会員の協力により，書籍『理科好きな子に育つふしぎのお話 365』を、本年 2 月に誠文堂新光社より出版した。より多くの方々に読んでいただけるよう、運営委員会としても宣伝の努力をしている（7 月時点の

販売数は3万部）。
2. 2015年度講演会（一般対象）を、2015年11月22日（日）に三重県立総合博物館にて開催する。好評であった昨年のやり方にならい、午前の講演会と午後の連合加盟学協会等が実施する体験講座の２本立て企画を実施すべく、準備を行っている。
3. 日本サンゴ礁学会から自然史学会連合への加盟希望の連絡があった。次の総会で承認する（加盟数は40学協会になる予定）。

博物館部会： 2月2日、7月6日
1. 昨年度の活動を継続し、おもに現行の学芸員資格制度の課題について議論を進めているが、会議に加えてメーリングリストを立ち上げたことにより，活発な意見交換がなされている。

（自然史学会連合　昆虫学会代表　清水　晃）

報告事項１４．日本分類学会連合に関する報告

１．第１４回の総会は２０１５年1月１０日（土）国立科学博物館本館講堂（上野）で開催され、決算・予算案ならびに本年度事業計画の審議がおこなわれた。同日午後には同会場で「国立自然史博物館の設立を望む」（国立科学博物館ほかとの共催）というテーマで、また1月１１日（日）には同会場で「分類学と応用科学の接点―人間社会にとって必要不可欠な分類学」（国立科学博物館との共催）というテーマで公開シンポジウムが開催され，多数の参加者があった。
２．日本分類学会連合ニュースレター２５号を刊行した．昆虫学会ホームページにもリンクされている連合のホームページ（http://www.bunrui.info/）から最新号までのニュースレターをダウンロードできる。
３．運用開始１２年目のメーリングリストTAXAは、本年６月末現在、登録者数１０３８名。昨年７月から１６名増加した。
４．第１５回総会・シンポジウムは２０１６年1月９日（土）に国立科学博物館大講堂（上野）で開催される予定である．シンポジウムのテーマは、「東南アジアにおける生物多様性研究最前線　～現在、そして未来～」（国立科学博物館との共催）を予定している．

その他の様々な情報については連合のホームページをご覧いただきたい。

（日本分類学会連合　昆虫学会代表　篠原明彦）

報告事項１５．国際昆虫学会議に関する報告

第25回国際昆虫学会議は、2016年9月25～30日に，アメリカ合衆国フロリダ州の オーランドで開催される。現在参加登録受付中（2016年3月25日が安い参加費の締め切り、一般$595、学生$350）。ポスターおよびオーラル一般講演の受け付けは2016年2月1日締め切り。
http://ice2016orlando.org/

（国際昆虫学会議　評議員　沼田英治）

報告事項１６．日本昆虫科学連合に関する報告

2015年度総会が2015 年８月１日 (土)に東京大学弥生講堂アネックス　セイホクギャラリーにおいて開催された。
１．2014年度事業として以下の５件が報告された。
（１）2014年７月26日(土)、総会およびシンポジウムを開催した（日本学術会議）。
（２）名古屋議定書問題に関して加盟学協会へのアンケートを実施し意見を求め、「昆虫分類学分野における生物多様性条約に関わる遺伝資源へのアクセス及び利益配分（ABS）の対策検討会」（2014年12月11日15：00～17：00東京農業大学世田谷キャンパス1号館 3階 324教室）の後援をおこなった。
（３）2014年11月１日に京都工芸繊維大学で役員会を開催し、以下の３点について審議した。i) ICE2016において日本昆虫科学連合が主催するサテライトシンポジウムの講演者について検討した。ii）2015年度1回目のシンポジウムのテーマは衛生昆虫学とした。iii）2015年度2回目のシンポジウムのテーマは外来昆虫とし、2016年３月の日本応用動物昆虫学会と日本昆虫学会の合同大会時に、４団体で共催することにした。
（４）2015年３月に、前執行部で計画されていた『昆虫科学読本 ―虫の目で見た驚きの世界』を出版した。
（５）2015年５月に、京都工芸繊維大学が計画している共同利用・共同研究拠点形成の「昆虫先端研究推進センター」への賛意と要望書を本連合として提出した。
２．2014年度の決算と監査報告がおこなわれ、承認された。
３．2015年度予算案および事業案について以下のように審議・承認された。

（１）2015 年度の予算案の説明があった。予算案については配布資料の修正が必要となったため、後日、メールによる書面審議にて最終決定することが了承された。
（２）以下の 2015 年度事業案が提案され、承認された。
・2015 年度 1 回目の総会および公開シンポジウム「衛生動物が媒介する病気と被害」を開催する[2015 年 8 月 1 日（土），東京大学]。
・2015 年度 2 回目の総会および公開シンポジウム（2016 年度の総会および公開シンポジウムを、例年の 7 月開催を前倒しして 2016 年 3 月におこなう。ただし、執行部の引き継ぎは 7 月末におこなう。公開シンポジウムのタイトルは昆虫類をめぐる外来生物問題と対策（仮））[2016 年 3 月 29 日（火），大阪府立大学]
４．今後の活動計画について以下の４件が報告された。
（１）国際昆虫学会議における本連合主催のサテライトシンポジウム（2016 年 9 月 25 日午後開催予定）について役員会議後、メール会議を開き検討を続け、ICE2016 におけるサテライトシンポジウムの９名の講演者・座長等が以下のように報告された。
（セッションと演者の順番、ならびに演題は仮）
Session I　Co-chaired by Dr. C. Schal (USA) and Dr. Y. Ishikawa (Japan)
Dr. K. Matuura　Evolution of asexual queen succession and pheromone communication in termites
Dr. M. Tokuda　Mechanisms and adaptive significance of host manipulation by insects
Dr. T. Takanashi　Vibration signals in cerambycid beetles and their application to pest control
Dr. N. Mori　Unique chemistry in mites
Dr. A. Wada-Katsumata　An adaptive gustatory change confers behavioral resistance to toxic baits and alters mate choice
Session II　Co-chaired by Dr. F. Marek (Czech Republic) and Dr. T. Shimada (Japan)
Dr. Katsuma, S.　Sex determination and dosage compensation cascades in the silkworm
Dr. Sahara, K.　Sex chromosome evolution in Lepidoptera
Dr. Fukatsu, T.　Symbiont's manipulation of insect's sex and reproduction
Dr. Maeto, K.　Evolution of asexual reproduction in parasitoid wasps
（２）日本学術会議応用昆虫学分科会と今後も連携をして活動することが報告された。
（３）公開シンポジウムの内容に基づく科学読本を今後も出版することについて報告された。
（４）次期代表および役員の選出の方法について報告された。
５．日本線虫学会の加盟について
配布資料に基づき審議され、承認された。

（日本昆虫科学連合 日本昆虫学会代表 多田内　修・阿部芳久）

Ⅱ．協議事項

１．2014 年度決算，会計監査報告：別紙４，５のとおり承認された。

２．英文誌電子化に伴う会則の変更について：一般正会員の会費を 10,000 円から 9,000 円に、学生正会員の会費を 5,000 円から 3,000 円に値下げすること、それに伴う会則の変更が承認された。下線部を挿入し，二重取り消し線部を削除する。

日本昆虫学会会則

2015 年 9 月 19 日改正

第７条　正会員および名誉会員は，その研究業績を本会の大会および会誌に発表することができ，かつ電子版の英文誌及び印刷版の和文誌を入手できる~~会誌の配布をうける~~．希望する場合は印刷版の英文誌を有償で受け取れる．~~ただし，英文誌「Entomological Science」については，学生正会員は電子ジャーナルのみの配布をうけるものとする．~~

2. 一般正会員，学生正会員，名誉会員は，総会において審議権と議決権をもつ．

3. 日本国内に会誌発送先のある正会員は会長ならびに評議員の選挙権と被選挙権をもつ．

4. 名誉会員は会費を免除される．

5. 団体会員および賛助会員は会誌の配付をうける．

(会員の義務)

第８条　一般正会員は会費年額 9,000~~10,000~~円を，学生正会員は会費年額 3,000~~5,000~~円を，海外正会員は会費年額 5,000 円を前納しなければならない．団体会員は会費年額 15,000 円を，また賛助会員は 30,000 円を一口とする会費年額を前納するものとする．

３．2016 年度予算：別紙６のとおり承認された。

４．電子図書館（NII-ELS）事業の終了について：2016 年度で NII-ELS 事業が完全に終了するため、今後の電子化には、他のサービスへの移行が必要となる。英文誌 vol.1-5 に関しては、Wiley との契約が切れる 2021 年まで Cinii に残すこと、和文誌の「昆蟲」も Cinii に残すこと、「昆蟲（ニューシリーズ）」については、後継の事業として開始される J-STAGE の一部としてのサービスへ移行することが承認された。

５．英文誌「Entomological Science」編集部規則の改正について：承認された。

英文誌「Entomological Science」編集部規則 （旧）	英文誌「Entomological Science」編集部規則 （新）
第１条 1.日本昆虫学会編集委員会規程第２条に定める英文誌編集部の構成ならびに運営については，この規則の定めるところによる．	第１条 1. 日本昆虫学会編集委員会規程第２条に定める英文誌編集部の構成ならびに運営については，この規則の定めるところによる．
第２条（委員） 1. 英文誌編集部は１名または２名の編集長（Editor(s)-in-Chief），複数名の編集部委員（Associate Editors），ならびに複数名の編集諮問委員（Editorial Board Members）により構成される．ただし，必要があるときは編集長のもとに編集庶務担当（Editorial Assistant）をおくことができるものとする．	第２条（委員） 1. 英文誌編集部員は１名の編集長（Editor-in-Chief），複数名の分野別編集長（Division Editors）と編集専門委員（Associate Editors），ならびに複数名の編集諮問委員（Editorial Board Members）により構成される．必要があるときは編集長のもとに編集庶務担当（Editorial Assistant）をおくことができるものとする．なお，編集長は分野別編集長を兼ねることができる．
2. 日本昆虫学会編集委員長が編集長を兼ねる．編集委員長は，他の１名の編集長を編集委員の中から選ぶことができる．編集長の任期は日本昆虫学会編 集委員長の任期と同じとするが，就任の前年末までに当該任期中の英文誌編集部の構成員を確定しておくものとする．また，任期終了後も，次年度の Entomological Science の２号までの編集と出版に責任をもつものとする．	2. 日本昆虫学会編集委員長が編集長を兼ねる．編集長の任期は日本昆虫学会編集委員長の任期と同じとするが，就任の前年末までに当該任期中の英文誌編集部員を確定しておくものとする．
3. 編集部委員は日本昆虫学会会員から，編集諮問委員は日本昆虫学会の会員であるかどうかを問わずに国内外の研究者から，編集長（編集部交代時の次 期編集長を含む）の推薦に基づき，日本昆虫学会編集委員会で審議の上，評議員会の承認を経て編集長が委嘱する．編集部委員と編集諮問委員の任期は編集長と 同じとする．ただし，重任はさまたげない．	3. 分野別編集長および編集専門委員は日本昆虫学会会員から，編集諮問委員は日本昆虫学会の会員であるかどうかを問わずに国内外の研究者から，編集長（編集部交代時の次期編集長を含む）の推薦に基づき，日本昆虫学会編集委員会で審議の上，評議員会の承認を経て編集長が委嘱する．編集長と他の編集部員の任期は同じとする．ただし，重任はさまたげない．
4. 編集部委員の互選により，１名の副編集長（Deputy Editor-in-Chief）をおく．副編集長は編集長が不在または事故ある時，その代理を務める．	4. 編集部は，任期終了後も，任期中に受け付けた論文の却下ないし電子出版までの編集業務を担当するものとする． 5. 分野別編集長の互選により，１名の副編集長（Deputy Editor-in-Chief）をおく．副編集長は編集長が不在または事故ある時，その代理を務める．
第３条（編集業務）	第３条（編集業務）

1. 編集長は原稿の送付を受け，必要があれば編集部委員ならびに編集諮問委員と協議の上，2名以上のレフェリーを選定して原稿の査読を依頼する. 2. 原稿の採否は，レフェリーの意見を参考にして，編集長が決める．ただし，必要がある時は編集部委員もしくは編集諮問委員に意見を求めることがで きる. 3. 編集長が著者である等，1項・2項の任を果たすのに不適切な場合は，もう1名の編集長または副編集長がこの任にあたるものとする. 4. その他の編集業務については出版社との契約の内容に従うものとする. 付則 本規則は2009年1月1日から施行する. 2011年9月16日一部改正.	1. 編集長・分野別編集長は電子投稿システムにより原稿の送付を受け，編集諮問委員を除く編集部員の中から，各論文の編集担当委員を決める．編集担当委員は，受理の可能性があると判断した論文について，2名以上のレフェリーを選定して原稿の査読を依頼する. 2. 編集担当委員は，レフェリーの意見等を参考にして，原稿の採否に関する意見を，分野別編集長に報告する．最終決定は，編集長・分野別編集長が行う．必要がある時は編集諮問委員に意見を求めることができる. 3. 編集長あるいは分野別編集長が著者である等，1項・2項の任を果たすのに不適切な場合は，編集長あるいは分野別編集長の中から別人がこの任にあたるものとする. 4. その他の編集業務については出版社との契約の内容に従うものとする. 付則 本規則は2009年1月1日から施行する. 2011年9月16日一部改正 2015年9月18日一部改正.

6．将来問題検討委員会の答申を受けた今後の方針について：別紙7の見解について様々な意見をいただいた。いただいたご意見等に基づき、3月の評議員会までに何らかの提案を行なうことが了承された。

7．次期編集委員長について：編集委員長として、戸田正憲会員が推薦され承認された。

8．2016・2017年度大会開催地の確認がなされた。

・日本昆虫学会第76回大会(2016年)　（日本応用動物昆虫学会との合同大会）　近畿支部
大会日程：2016年3月25日（金）（役員会）、26日（土）～29日（火）（大会）
大会会場：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス（〒599-8531 堺市中区学園町1番1号）
大会会長：石井実（大阪府立大学）

・日本昆虫学会第77回大会(2017年)　四国支部
大会日程：2017年9月
大会会場：愛媛大学城北キャンパス
大会会長：未定

・その後の予定　第78回大会（2018年）-東海支部
第79回大会（2019年）-東北支部
第80回大会（2020年）-信越支部

総会報告

日時　2015年9月19日（土）14：30－16：00
場所　九州大学箱崎キャンパス総会会場（大講義室）
議長　徳田誠（九州支部評議員）

Ⅰ．報告事項

1．評議員会報告会務報告に同じ

2．評議員会報告協議事項報告に同じ

Ⅱ．協議事項

1．2014年度決算，会計監査報告：別紙４，５のとおり承認された。

2．会則改正：一般正会員の会費を10,000円から9,000円へ、学生正会員の会費を5,000円から3,000円へ値下げすること、そのための会則改正が承認された。下線部を挿入し，二重取り消し線部を削除する。

日本昆虫学会会則

（第１条の前に「2015年9月19日改正」を挿入する）

第７条　正会員および名誉会員は，その研究業績を本会の大会および会誌に発表することができ，かつ電子版の英文誌及び印刷版の和文誌を入手できる~~会誌の配布をうける~~．希望する場合は印刷版の英文誌を有償で受け取れる．~~ただし，英文誌「Entomological Science」については，学生正会員は電子ジャーナルのみの配布をうけるものとする．~~

2. 一般正会員，学生正会員，名誉会員は，総会において審議権と議決権をもつ.

3. 日本国内に会誌発送先のある正会員は会長ならびに評議員の選挙権と被選挙権をもつ.

4. 名誉会員は会費を免除される.

5. 団体会員および賛助会員は会誌の配付をうける.

（会員の義務）

第8条　一般正会員は会費年額 9,000~~10,000~~円を，学生正会員は会費年額3,000~~5,000~~円を，海外正会員は会費年額 5,000円を前納しなければならない．団体会員は会費年額 15,000円を，また賛助会員は 30,000円を一口とする会費年額を前納するものとする.

3．2016年度予算：別紙６のとおり承認された。

4．2016・2017年度大会開催地について：確認がなされた。

2015 年度会計中間報告（2015 年 7 月 31 日現在）

一般会計　　単位（円）

	実績	予算
収入	10,412,057	10,710,400
支出	7,201,651	10,710,400
差引残高	3,210,406	

特別会計　　単位（円）

収入	基金元金	基金利子	積立金	合計
前年度繰越金	20,225,077	620,592	0	20,845,669
寄付金			0	
積立金			0	
利息			0	
合計	20,225,077	620,592	0	20,845,669
支出	0	0	0	0
差引残高	20,225,077	620,592	0	20,845,669

経済産業省 資源エネルギー庁長官　上田 隆之 様
環境省 自然環境局局長　塚本 瑞天 様
農林水産省 林野庁長官　今井　敏 様
文部科学省 文化庁長官　青柳 正規 様

熊本県内大臣峡のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書

1973 年に熊本県市房山で日本から最も新しく発見された蝶の一種ゴイシツバメシジミは，他に同県内大臣峡，大淀川上流の熊本・宮崎県境の白髪岳周辺，奈良県川上村のみ生息が確認されています．ところが，市房山及び内大臣峡以外の産地ではすでに絶滅しました．市房山や内大臣峡でも個体数は著しく少なく，絶滅の危機が極めて高い希少な蝶です．そのため，本種は国の天然記念物（文化財保護法指定），国内希少野生動植物種（環境省・種の保存法指定），環境省レッドリスト絶滅危惧 IA 類にも指定されています．また，環境省，文部科学省，農林水産省の三省による「ゴイシツバメシジミ保護増殖事業」（平成９年４月３日策定）が，本種の保全，増殖に予算措置を伴って長年にわたり実施されています．

ゴイシツバメシジミの幼虫は照葉樹林帯の大木の幹や太枝に着生するシシンラン（イワタバコ科）の花蕾のみを摂食し，この植物も環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に掲載されている希少な植物です．本種は６月中旬から８月下旬にかけて成虫が羽化，交尾・産卵して，卵からふ化した幼虫は食餌の花期に合わせてわずか２週間ほど摂食した後，翌年６月までの約 10 か月間を環境変化に弱い幼虫で樹上にて長期休眠する変わった生活史を持ちます．一方，食餌植物のシシンランは空中湿度の高い原生林の谷間に生育し，一般に谷底から 50m 未満に位置する大木にのみ着生するため，大気の成分や気温・湿度などの環境条件に極めて敏感です．

このようにゴイシツバメシジミおよび幼虫の食餌植物シシンランは，特殊な環境条件を好み，かつ特異な生態を持つため，森林内の大気汚染や乾燥化には極めて脆弱であることが判明しています．加えて，本種は我が国唯一の着生植物依存の蝶類であり，シシンランに依存する故に西日本の潜在植生である照葉樹林帯の良好な残存状態を示す貴重な指標動物でもあります．

この度，日本昆虫学会および日本鱗翅学会は，ゴイシツバメシジミの発見当初から保護活動に努められ，三省の保護増殖事業計画でも専門家として活躍されている九州大学名誉教授三枝豊平博士（日本昆虫学会元会長）から，熊本県山都町目丸内大臣峡にある JNC（株）の目丸発電所に関わる価格固定買取制度（以下，「FIT 制度」と略）設備認定のための工事が，同地に生息する貴重なゴイシツバメシジミの生息保全に多大な影響が生じる恐れがあるという詳細な報告を受けました．

特に，工事予定期間の二年間は，導水路トンネル工事用の大型発電機の設置により周辺環境が著しく悪化することに加え，この大型発電機の昼夜にわたる連続稼働で生じる排気ガスは，狭隘な渓谷の内大臣峡に停留する危険性が極めて高く，大気汚染や熱などの大気環境の変化に脆弱なゴイシツバメシジミやシシンランに甚大な悪影響を及ぼすことが懸念されます．

このような状況を鑑み，資源エネルギー庁におかれましては，JNC（株）目丸発電所の FIT 設備認定に際し，希少種，生態系に重大な影響を及ぼすおそれのあるような計画を認定しないよう，強く要望致します．また，JNC（株）が計画する具体的な工法等については，貴四省庁から JNC（株）に対し，ゴイシツバメシジミやシシンランへの影響を最小限にするため，本種の保全関係者と緊密に協議するよう指導して頂きますよう，この点も強く要望致します．なお，当二学会も専門家集団としていつでもご協力させて頂く用意がございます．

2015 年 1 月 25 日

日本昆虫学会
会長　前藤　薫（神戸大学大学院農学研究科 教授）
学会本部　〒305-0005　茨城県つくば市天久保4-1-1　国立科学博物館動物研究部
日本鱗翅学会
会長　石井　実（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授）
学会本部　〒192-0063　東京都八王子市元横山町 2-5-20
［担当］日本昆虫学会・日本鱗翅学会 自然保護委員長　矢後　勝也
〒113-0033　東京都文京区本郷 7-3-1　東京大学 総合研究博物館
Tel. 03-5841-8455; Fax. 03-5841-8451, E-mail: myago@um.u-tokyo.ac.jp
（本件に関わる連絡の必要がありましたら，上記担当自然保護委員長宛にお願い致します）

JNC 株式会社
代表取締役社長　森田 美智男 様

熊本県内大臣峡のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書

1973 年に熊本県市房山で日本から最も新しく発見された蝶の一種ゴイシツバメシジミは，他に同県内大臣峡，大淀川上流の熊本・宮崎県境の白髪岳周辺，奈良県川上村のみ生息が確認されています．ところが，市房山及び内大臣峡以外の産地ではすでに絶滅しました．市房山や内大臣峡でも個体数は著しく少なく，絶滅の危機が極めて高い希少な蝶です．そのため，本種は国の天然記念物（文化財保護法指定），国内希少野生動植物種（環境省・種の保存法指定），環境省レッドリスト絶滅危惧 IA 類にも指定されています．また，環境省，文部科学省，農林水産省の三省による「ゴイシツバメシジミ保護増殖事業」（平成９年４月３日策定）が，本種の保全，増殖に予算措置を伴って長年にわたり実施されています．

ゴイシツバメシジミの幼虫は照葉樹林帯の大木の幹や太枝に着生するシシンラン（イワタバコ科）の花蕾のみを摂食し，この植物も環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に掲載されている希少な植物です．本種は６月中旬から８月下旬にかけて成虫が羽化，交尾・産卵して，卵からふ化した幼虫は食餌の花期に合わせてわずか２週間ほど摂食した後，翌年６月までの約 10 か月間を環境変化に弱い幼虫で樹上にて長期休眠する変わった生活史を持ちます．一方，食餌植物のシシンランは空中湿度の高い原生林の谷間に生育し，一般に谷底から 50m 未満に位置する大木にのみ着生するため，大気の成分や気温・湿度などの環境条件に極めて敏感です．

このようにゴイシツバメシジミおよび幼虫の食餌植物シシンランは，特殊な環境条件を好み，かつ特異な生態を持つため，森林内の大気汚染や乾燥化には極めて脆弱であることが判明しています．加えて，本種は我が国唯一の着生植物依存の蝶類であり，シシンランに依存する故に西日本の潜在植生である照葉樹林帯の良好な残存状態を示す貴重な指標動物でもあります．

この度，日本昆虫学会および日本鱗翅学会は，ゴイシツバメシジミの発見当初から保護活動に努められ，三省の保護増殖事業計画でも専門家として活躍されている九州大学名誉教授三枝豊平博士（日本昆虫学会元会長）から，熊本県山都町目丸内大臣峡にある貴社の目丸発電所に関わる価格固定買取制度（以下，「FIT 制度」と略）設備認定のための工事が，同地に生息する貴重なゴイシツバメシジミの生息保全に多大な影響が生じる恐れがあるという詳細な報告を受けました．

特に，工事予定期間の二年間は，導水路トンネル工事用の大型発電機の設置により周辺環境が著しく悪化することに加え，この大型発電機の昼夜にわたる連続稼働で生じる排気ガスは，狭隘な渓谷の内大臣峡に停留する危険性が極めて高く，排気ガスによる大気汚染や熱などの大気環境の変化に脆弱なゴイシツバメシジミやシシンランに甚大な悪影響を及ぼすことが懸念されます．

このような状況を鑑み，貴社の目丸発電所の FIT 設備認定のための工事計画の中で，希少種，生態系に重大な影響を及ぼすおそれのあるような計画をしないよう，強く要望致します．しかし，資源エネルギー庁との折衝において，上記大型発電機の設置がどうしても避けられない状況になりましたら，発電機の設置場所や稼働方法などについて，ゴイシツバメシジミやシシンランへの影響を最小限にするため，本種の保全関係者と緊密に協議して頂きますよう，この点も強く要望致します．なお，当二学会も専門家集団としていつでもご協力させて頂く用意がございます．

貴社はこれまでも目丸発電所周辺のゴイシツバメシジミおよびシシンランの保全に対して多大な配慮をして頂いていることは，三枝博士から聞き及んでおります．今回の要望に対しましても格別なご配慮を賜りますよう，お願い申し上げる次第です．

2015 年 1 月 25 日

日本昆虫学会
会長　前藤　薫（神戸大学大学院農学研究科 教授）
学会本部　〒305-0005　茨城県つくば市天久保4-1-1　国立科学博物館動物研究部
日本鱗翅学会
会長　石井　実（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授）
学会本部　〒192-0063　東京都八王子市元横山町 2-5-20
［担当］日本昆虫学会・日本鱗翅学会 自然保護委員長　矢後　勝也
〒113-0033　東京都文京区本郷 7-3-1　東京大学 総合研究博物館
Tel. 03-5841-8455; Fax. 03-5841-8451, E-mail: myago@um.u-tokyo.ac.jp
（本件に関わる連絡の必要がありましたら，上記担当自然保護委員長宛にお願い致します）

希少チョウ 生息域守って

2学会、4省に

チッソ子会社の発電所改修巡り要望

国天然記念物のチョウ、ゴイシツバメシジミが生息する熊本県山都町の渓谷の生態系が、チッソの子会社JNC（東京）の計画する水力発電所改修工事により壊される恐れがあるとして、日本昆虫学会と日本鱗翅（りんし）学会は25日、JNCへの指導を求める要望書を経済産業、環境、農林水産、文部科学の4省に送った。

ゴイシツバメシジミ。羽を広げた差し渡しは2センチ前後＝三枝豊平・九州大名誉教授提供

このチョウの生息域は、山都町を含め国内2カ所で、環境省レッドリストでは絶滅危惧IA類。国内希少野生動植物種に1996年に指定され、環境、農水、文科3省が保護増殖事業を続けている。

要望書は、生態系を壊す危険性のある計画を認定しないよう資源エネルギー庁に求め、影響を最小限に抑えるため保全関係者との協議をJNCに指導するよう4省に促す内容。同じ趣旨の文書をJNCにも送った。

発電所は64年に完成。JNCは生態系保護に協力してきたが、東日本大震災後、電力事業拡大に乗り出した。再生可能エネルギー固定価格買い取り制度の対象としての認定を経産省から受けるため今回、導水路の改修などを計画した。工事用の大型発電機を設置するという。

照葉樹の原生林を好むゴイシツバメシジミや、幼虫の餌となる希少植物シシンランは、大気汚染や乾燥化に極めて弱い。両学会は、発電機から出る排ガスや熱がチョウと餌の植物に及ぼす深刻な影響を懸念する。両学会の自然保護委員長である矢後勝也・東大総合研究博物館助教は「専門家集団として保全に協力したい」と話す。

JNC広報室は「書面が届いていないので、何とも申し上げようがない」としている。

（田中啓介）

朝日新聞朝刊（2015年1月27日付）

別紙３

ＪＮＣ株式会社
代表取締役社長　後藤　泰行　様

熊本県内大臣峡のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書への回答について

２０１５年1月２５日付「熊本県内大臣峡のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書」に対し、去る２０１５年3月９日、貴社より日本昆虫学会および日本鱗翅学会事務局に工事概要等をご説明頂きました。

＜主な貴社説明内容＞

・原則として自社電力を使用し、エンジン発電機は使用しない。緊急用に小型発電機を設置するが、排ガス除去装置も併設する。
・索道は敷設せず、モノレールを設置する。モノレール設置にあたっては、森林管理署と協議の上、シシンラン着生木およびゴイシツバメシジミ保全に配慮したルートを取る。
・粉塵対策として、工事箇所のシート養生を行う。
・大原則としては乾燥させない。乾燥防止のために道路や通路の拡張、草木の伐採を行わない。
・ゴイシツバメシジミ、シシンランとも日長の影響を強く受けるため、夜間の照明には光量・波長などに十分に配慮する。
・周辺環境の保護、情報漏洩に対し、JNC(株)やその他の施工会社の作業員への教育を徹底する。
・関係者以外の立ち入り禁止を徹底する。
・現在の計画から大きな変更が行われる際は、本学会等を含む有識者に意見を求める。

上記内容は、目丸発電所周辺のゴイシツバメシジミおよびシシンランの保全に対して最大限配慮されたものであることを確認致しました。

貴社は、これまでも保全に対して多大な配慮をして頂いており、その点におきまして心より深謝を致します。今後も本件につきまして密に連絡をとり、両種の保全へのご協力をお願い申し上げます。

２０１５年5月２５日

日本昆虫学会
会長　前藤　薫
（神戸大学大学院農学研究科　教授）
学会本部　〒305-0005　茨城県つくば市天久保4-1-1　国立科学博物館動物研究部

日本鱗翅学会
会長　石井　実
（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科　教授）
学会本部　〒192-0063　東京都八王子市元横山町2-5-20

[担当]
日本昆虫学会・日本鱗翅学会
自然保護委員長　矢後　勝也
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1　東京大学　総合研究博物館
Tel.03-5841-8455;Fax.03-5841-8451
E-mail:myago@um.u-tokyo.ac.jp
（本件に関わる連絡の必要がありましたら、上記担当自然保護委員長宛にお願い致します。）

日本昆虫学会2014年度一般会計収支決算書

（2014年1月1日～12月31日）

科　　目	予　算　額	決　算　額	差　　異
収入の部			
会費	10,200,000	9,860,000	340,000
出版物売上金	100,000	81,750	18,250
英文誌売り上げマージン	330,000	381,251	△ 51,251
広告料	250,000	160,000	90,000
科研費出版補助金	0	0	0
雑収入	80,000	172,772	△ 92,772
利息	400	406	△ 6
小　　計	10,960,400	10,656,179	304,221
前年度繰越金	0	△ 632,151	632,151
合　　計	10,960,400	10,024,028	936,372

支出の部

会誌費	8,200,000	7,101,038	1,098,962
英文誌出版委託費	5,200,000	5,013,875	186,125
和文誌印刷費	1,800,000	967,492	832,508
編集費	600,000	600,000	0
送料	600,000	519,671	80,329
大会援助金	250,000	250,000	0
会議費	0	0	0
旅費	0	75,920	△ 75,920
渉外・図書費	0	0	0
自然保護委員会	25,000	25,000	0
将来問題検討委員会	0	0	0
電子化推進委員会	100,000	46,200	53,800
学会賞賞金	130,000	130,000	0
事務費	150,000	30,709	119,291
業務委託費	1,650,000	1,566,119	83,881
選挙費	300,000	291,965	8,035
各種団体協力金	50,000	50,000	0
予備費	105,400	0	105,400
小　　計	10,960,400	9,566,951	1,393,449
次年度繰越金	0	457,077	△ 457,077
合　　計	10,960,400	10,024,028	936,372

貸借対照表（2014年12月31日現在）

貸　　方		借　　方	
科　　目	金　　額	科　　目	金　　額
流動負債		流動資産	
前受会費	5,020,000	郵便振替口座	1,803,495
		三菱東京UFJ銀行福岡支店	850,269
前年度繰越金	△ 632,151	三菱東京UFJ銀行江戸川支店	3,049,555
当期収支差額	858,393	現金管理分	0
次年度繰越金	457,077		
	5,703,319		5,703,319

財産目録（2014年12月31日現在）

＜資産の部＞

科　　目	摘　　要	金　　額
郵便振替口座	国際文献社管理口座	1,803,495
三菱東京UFJ普通	三菱東京UFJ銀行福岡支店　会計幹事管理口座	850,269
三菱東京UFJ普通	三菱東京UFJ銀行江戸川支店　国際文献社管理口座	3,049,555
現金管理分	現金管理分	0
合　　計		5,703,319

＜負債の部＞

科　　目	摘　　要	金額
前受会費	2015年度分（2016年度分1万円を含む）	5,020,000
合　　計		5,020,000

収入－支出　　457,077 円　　2015年度へ繰越

上記のとおり、収入支出金額について関係書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2015年 1月30日

監査　中尾史郎

監査　大島一正

日本昆虫学会２０１４年度特別会計収支決算書

（２０１４年1月１日～１２月３１日）

＜基金元金＞

科目		予算額	決算額	差異
収入の部				
	寄付金	0	0	0
	前年度繰越金	20,225,077	20,225,077	0
	合計	20,225,077	20,225,077	0
支出の部				
	次年度繰越金	20,225,077	20,225,077	0
	合計	20,225,077	20,225,077	0

＜基金利子＞

収入の部				
	利息	0	0	0
	前年度繰越金	907,686	907,686	0
	合計	907,686	907,686	0
支出の部				
	国際会議渡航旅費補助金	0	0	0
	一般会計への繰入金	0	0	0
	ESA学生相互会員費	76,000	56,544	19,456
	ウェブ新システム構築費	350,000	230,550	119,450
	次年度繰越金	481,686	620,592	△ 138,906
	合計	907,686	907,686	0

貸借対照表（2014年12月31日現在）

貸	方	借	方
科目	金額	科目	金額
流動負債		流動資産	
基金元金	20,225,077	普通貯金	20,845,669
基金利子	620,592		
	20,845,669		20,845,669

財産目録（2014年12月31日現在）

＜資産の部＞

科目	摘　　要	金額
普通貯金	三菱東京UFJ銀行福岡支店（決済専用）	20,845,669
合計		20,845,669

＜負債の部＞

科目	摘　　要	金額
基金	元金	20,225,077
合計		20,225,077

基金元金と基金利子の次年度繰越金合計　　20,845,669 円

上記のとおり、収入支出金額について関係書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2015年 1月30日

監査　中尾史郎　印

監査　大島二正　印

2015 年度予算案（参考）

一般会計（単位円）

収入	
会費	9,900,000
出版物売上金	100,000
英文誌売上げマージン	330,000
広告料	300,000
科研費出版補助金	0
雑収入	80,000
利息	400
合計	10,710,400

支出	
会誌費	8,200,000
英文誌出版委託費	5,500,000
英文誌編集費	600,000
-	0
和文誌印刷費	1,500,000
送料	600,000
大会援助金	300,000
会議費	0
旅費	100,000
渉外・図書費	0
自然保護委員会	25,000
将来問題検討委員会	0
電子化推進委員会	57,000
学会賞賞金	150,000
事務費	50,000
業務委託費	1,650,000
選挙費	0
各種団体協力金	50,000
会計監査費	0
予備費	128,400
合計	10,710,400

特別会計（単位円）

収入	
前年度繰越金	20,875,945
基金元金	20,225,077
基金利子	650,868
利子	0
合計	20,875,945

支出	
ESA 学生相互会員	76,000
Ent Sci 臨時増ページ	1,200,000
次年度繰越金	19,599,945
合計	20,875,945

2016 年度予算（案）

一般会計（単位円）

収入	
会費	8,610,000
出版物売上金	100,000
英文誌売上げマージン	400,000
広告料	280,000
Wiley より編集費補助	300,000
雑収入	128,000
利息	400
合計	9,818,400

支出	
会誌費	6,664,000
英文誌出版委託費	2,800,000
英文誌編集費	1,200,000
英文誌印刷費	464,000
和文誌印刷・編集費	1,600,000
送料	600,000
大会援助金	300,000
会議費	0
旅費	100,000
渉外・図書費	0
自然保護委員会	25,000
将来問題検討委員会	0
電子化推進委員会	57,000
学会賞賞金	150,000
事務費	50,000
業務委託費	1,650,000
選挙費	300,000
各種団体協力金	50,000
財務検査費	400,000
予備費	72,400
合計	9,818,400

特別会計（単位円）

収入	
前年度繰越金	19,599,945
基金元金	19,025,077
基金利子	574,868
利子	0
合計	19,599,945

支出	
ESA 学生相互会員	0
国際会議渡航旅費補助金	300,000
次年度繰越金	19,299,945
合計	19,599,945

日本昆虫学会評議員各位

日本昆虫学会長　前藤　薫

7 月 24 日にご提案いたしました女性会員を対象とする学会賞について、貴重なご意見を賜りありがとうございました。５名の方からは、研究奨励という賞の性格を正しく表す名称に改める必要があるなどのご提案を含め、賛成のご意見を頂きました。一方、２名の方からは、女性賞は性的に公平でなく、むしろ弊害が危惧されるというご意見を頂きました。

女性の活力を取り込むことは喫緊の課題であり、若い男性会員にメリットがある

ご意見のなかには、学会として何らかの施策をしなくても女性会員は自然に増えてゆくというお考えもありました。しかし、本学会の国内正会員に占める女性会員の割合は、2005 年に 7.0%であったものが、2010 年に 9.0%、2014 年においても 9.1%と低迷しており、決して安穏と自然増を期待できる状況にはありません（表１、２）。日本応用動物昆虫学会あるいは米国昆虫学会の女性会員比率も決して高いものではありませんが（表３、４）、本学会の女性比率より明らかに高く、女性が昆虫学に向いていない訳ではなさそうです。

本学会においても学生会員に限れば女性の割合は２割を超えています。しかし、学生会員から一般会員に移行するところに障害があります。こうした傾向は他学会と較べても、本学会において特に顕著です（下図参照）。昆虫を研究対象とする若手女性研究者は関連他学会において次第に増加しているにもかかわらず、本学会はそうした女性研究者の活力を十分には取り込めていないのではないかと考えています。

女性会員の増加は、多様な感性、ものの見方、経験、スキルを学会にもたらしてくれるに違いありません。女性会員が増えないことによって最も不利益を被るのは、未来の本学会を担う若い男性会員であることに気づいて頂きたいと思います。

女性賞の目論見、男性会員は不利益を被るのか

こうした現状を打破するための方策のひとつとして、博士の学位をもつ女性会員を対象とする研究奨励賞をご提案いたしました。会員の皆様が学会内外の気鋭の女性研究者に賞へのチャレンジを呼びかけることによって、本学会に対する女性研究者の認知と関心が高まることを期待するものです。また、受賞者にはあらゆる機会をとらえて、学会内外の若い女性研究者・学生に昆虫学の魅力を伝えて頂きたいと思っています。

女性だけを対象とする顕彰は公平でないというご意見を頂きました。入学試験や就職採用におけるアファーマティブ・アクションには、男性に対する不利益が厳に存在しており、異論が少なくありません。しかし、女性会員が研究奨励賞を与えられることによって、男性会員はどのような不利益を被るのでしょうか。例えば、同じ研究職公募に応じた際に、研究業績の違いよりも女性賞の有無によって採否が決まることは考えにくいと思います。ただし、一部に危惧されているように、もしも優秀な女性会員の多くが女性に限定した賞は女性蔑視だと感じて応募されないようであれば、賞は成り立ちません。もちろん女性会員を増やす効果も期待できません。そのためにご提案では５年をめどに賞の継続を検討することを明記いたしました。

文末にお示ししましたように、決して少なくない学会が、女性研究者の活躍を支援し、会員増をはかる目的で、女性を対象とする顕彰を行なっています。協議事項６「将来問題検討委員会の答申を受けた今後の方針」において、女性を対象とする賞について改めてご意見を頂きたく存じます。

以下、参考資料

表－１　日本昆虫学会の国内正会員の構成（2014 年９月）

一般正会員　男 852　女 62（6.8%）

学生正会員　男 135　女 37（21.5%）

合　計　　男 987　女 99（9.1%）

表－２　日本昆虫学会の国内正会員の推移（一般・学生を区別したデータはない）

2005 年　男 1262　女　95（7.0%）

2010 年　男 1183　女 117（9.0%）

2014 年　男　987　女　99（9.1%）

表－３　日本応用動物昆虫学会の国内会員の構成（2014 年）

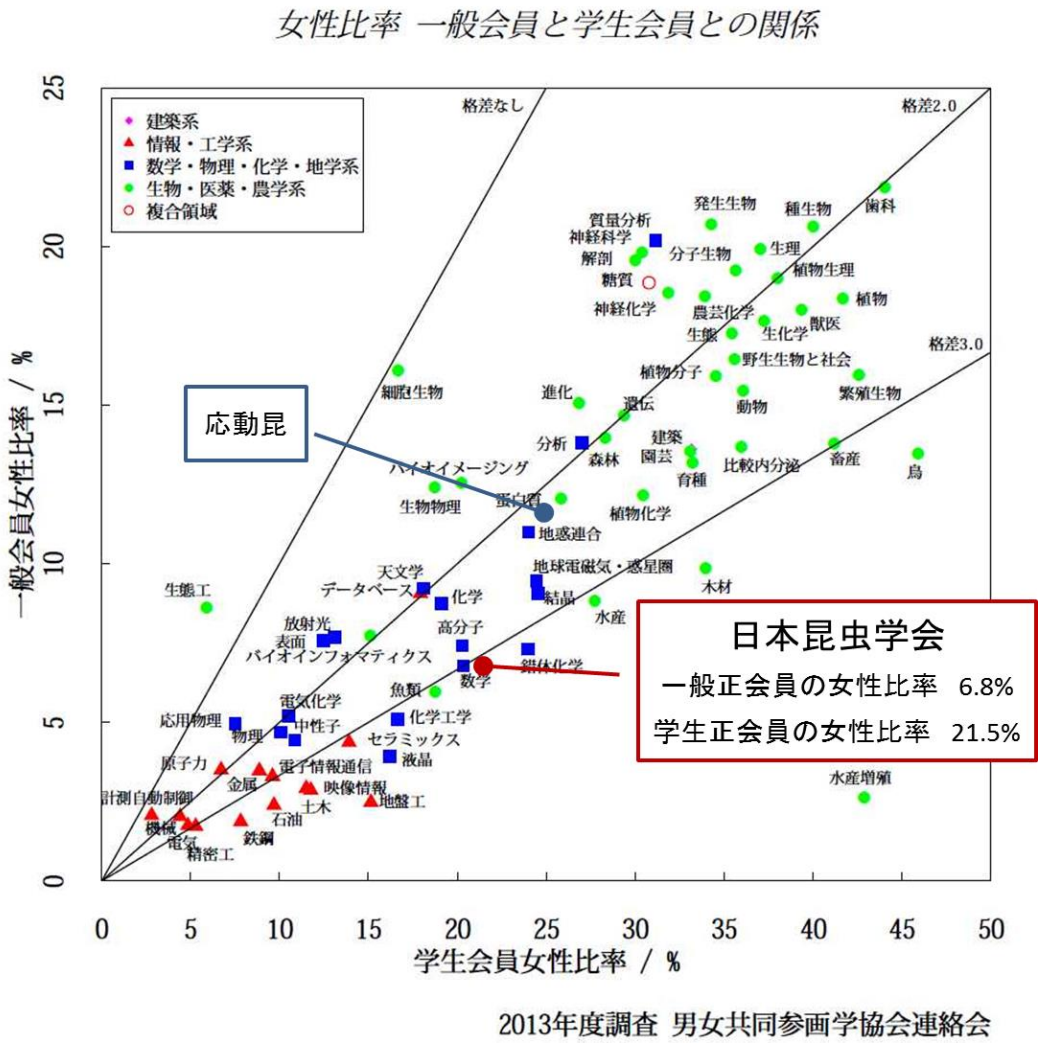
一般会員　男 1144　女 158（12.1%）

学生会員　男　183　女　62（25.3%）

合　計　　男 1327　女 220（14.2%）

表－４　米国昆虫学会会員の女性比率（2015 年、申告のない約 1%を除く）

全体 31.3%　　一般＋若手 25.6%　　学生 53.2%



2013年度調査 男女共同参画学協会連絡会

2013 年度に調査された男女共同参画学協会連絡会の集計データに、2014 年度の本学会および日本応用動物昆虫学会のデータを重ねています。

女性を対象とする学会賞の事例　(開始年は、制定の年あるいは最初の授与年)

日本草地学会、女性研究者賞、男女共同参画社会の構築への寄与、基金、2015 年～

日本木材学会　優秀女子学生賞、40 歳以下の正会員の女性の比率が 30%に達するまで、
　　５年毎に見直し、2014 年～

日本免疫学会　女性免疫研究者賞、副賞 30 万円、2014 年～

日本化学会　女性化学者奨励賞、40 歳未満、2012 年～

化学工学会　女性賞、仕事と生活の調和の実現度も勘案、2011 年～

日本生理学会　入澤彩記念女性生理学者奨励賞、副賞 100 万円、寄付基金、2011 年～

日本放射線影響学会　女性研究者顕彰岩崎民子賞、基金、2010 年～

日本薬剤学会　永井記念国際女性科学者賞、国内外の女性科学者、2007 年～

日本循環器学会　女性研究者奨励賞、論文賞、副賞 50 万円、2007 年～

日本動物学会　女性研究者奨励 OM 賞、副賞 50 万円、寄付基金、2001 年～